


# インフォメーション・コーナー




## 会 告

研究部会長の交代について.....	86
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!.....	86
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い.....	86
「農業農村工学会学術基金」の募金について.....	87
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	87
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）のお知らせ.....	87
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！.....	88
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 21 秋期～冬季の表紙写真の募集.....	89
水土文化研究部会第 5 回研究会の開催について（第 2 報）  .....	90
第 54 回風に関するシンポジウム開催について.....	90
農業農村工学会論文集 253 号内容紹介.....	91
<b>学会記事</b> .....	93

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、農業土木技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 20 年 2 月 21～22 日	水土技術セミナー実行委員会	第 24 回水土技術セミナー 	機能保全における性能設計入門	東京都	75 巻 12 号
平成 20 年 2 月 28 日	水土文化研究部会	第 5 回研究会 	水土・持続のテクノロジー	東京都	76 巻 1 号 76 巻 2 号
平成 20 年 8 月 26～28 日	大会運営委員会	平成 20 年度農業農村工学会大会講演会 		秋田市	75 巻 12 号 76 巻 1 号

### 第 76 巻 3 号予定

**展望：**施設機能工学によるストックマネジメントに向けて：長束 勇

**小特集：**基幹水利施設のストックマネジメント

農業水利施設のストックマネジメントのあゆみと今後の展望：杉山 一弘

ストックマネジメントに対する水利システムの機能と性能：中 達雄

農業水利施設の構造機能診断のための調査手法：森 丈久他

農業水利ストック情報データベースの概要：加藤 公平

構造破壊を生じた既設 RC 開水路の調査・診断と変状特性：佐藤 周之他

PC 管の調査・診断手法の検討：水島 淑博他

### 技術リポート

北海道支部：猿別幹線排水路における分流施設について：林 進他

東北支部：急傾斜地における鋼製棧道橋の設計計画：菊地 和明他

関東支部：農業用水管のマクロセル腐食対策工：村松 憲潔

京都支部：伐採木を利用した法面緑化：山邊 達也

中国四国支部：農道橋における総合評価方式による一般競争入札の事例：神庭 和彦

九州支部：転倒堰における倒伏時に発生する低周波音への対策について：村川 雅己他

**講座：**生態系配慮の基礎知識（その 6）生息系評価の理論：藤咲 雅明

**小講座：**ストックマネジメント：牛島 栄

**私のビジョン：**長期供用ダムへの取組みから考えること：渡部 大輔

## 研究部会長の交代について

下記の研究部会長の交代が行われました。

農業農村工学会水文・水環境研究部会長（平成20年1月1日付）

新 増本 隆夫（（独）農村工学研究所）

前 武田 育郎（島根大学生物資源科学部）

新部会長の任期 平成20年1月1日より平成21年12月31日まで

## 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

### 行事企画委員会

### 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPD、また、通信教育で最大年間18CPD取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）にある参加申込書に必要事項を記載してメール（E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>、<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

#### 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

#### 3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。（☎03 5777 2098）

#### 4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

## 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された

会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494，  
E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村  
工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロード

して下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報は、災害対応調査にのみ活用し、適  
切に取り扱います。

### 「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、  
わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。  
しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農  
業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南ア  
ジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっていま  
す。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流  
の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資  
するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野  
賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志か  
らの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、  
お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成18年度までに43件の  
実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

### 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and  
Water Environment Engineering:PAWEES)は、機関誌として国  
際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008  
年3月末にはVol.6, No.1が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わ  
る研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみなら  
ず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。  
たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆  
様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4  
回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む)8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先：農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ([http://www.jsidre.or.jp/  
publ/ij/scope.htm](http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm))の「5. APPLICATION FORM FOR THE  
REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXで  
お申し込みいただけます。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局(投稿先)のお知らせ

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and  
Water Environment Engineering)は、機関誌として国際ジャーナ  
ル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年3月末には

Vol.6, No.1が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)  
のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでも

IFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**投稿先** : PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針** : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田

畑輪換等 である。

**編集体制** (2006.1.1~2008.12.31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

**出版社** : Springer Verlag社 (ドイツ)

**投稿資格** : 筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等** : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

## 農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

### 学会誌編集委員会

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

#### 学会誌76巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要旨締切 (A4判 1500字以内)	原稿締切 (刷り上り 4ページ厳守)
76巻 3号 基幹水利施設のストックマネジメント	公募終了	
4号 学会名称変更関連	公募なし	
5号 第1回アジア・太平洋水サミット関連	公募なし	
6号 大会関連	公募なし	
7号 耕作放棄地の解消と再発防止(仮)	公募終了	
8号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み事例(仮)	公募終了	平成20年4月14日
9号 電磁波計測技術の農業・農村工学分野への活用(仮)	平成20年3月25日	平成20年5月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

## 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、**刷上がり1ページ**(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

**私の薦める本**は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

## 76巻9号テーマ「電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用」(仮)

近年の情報技術等の進歩により、電磁波を用いた計測技術が飛躍的な革新と普及を遂げ、あらゆる分野への応用が行われています。

農業農村工学分野においても、電磁波レーダ法はコンクリート、埋設管路等の構造物非破壊診断技術として活用されております。また地中レーダ等の電磁波を用いた地盤計測方法は地中埋設物検知から地質構造調査、土壌水分動態把握まで幅広く活用されております。

一方、昨年秋に一般的な利用が開始された陸域観測技術衛星「だいち(ALOS, Advanced Land Observing Satellite)」に搭載された合成開口レーダは、農村地域の災害監視や作物生育状況監視等への活用が期待されております。

本特集号では、このような電磁波を用いた調査計測技術の農業および農業農村工学分野における応用について、適用事例、技術動向、展望等に関する報文を募集いたします。

### 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

### 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成21年秋季~冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

#### 趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

#### 記

#### 1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

水土の知 76(2)

(昨年と同様)

#### 2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1~12月号)のうち、特に秋季~冬季のもの

#### 3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 平成20年3月30日(秋季~冬季の写真)

#### 6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

## 水土文化研究部会第5回研究会の開催について(第2報)

### テーマ『水土・持続のテクノロジー』

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



わが国は、水田農業に基礎を置いた水土の上に成り立ち、この水土の持続が生存の基礎になっている。また、各地域にはそれぞれの水土に応じて、持続のための固有の作法・技法(広義のテクノロジー)が存在している。地域に応じた水土を健全に維持運営するために培われてきた 水土の知 の地域での具体例について、東南アジアの稲作にも視野を広げて研修する。

1. 日時 平成20年2月28日(木) 13:00~16:00

2. 場所 虎ノ門パストラル・新館6階「アジュール」

〒105 0001 東京都港区虎ノ門4 1 1

☎03 3432 7261(代)

3. プログラム(表題は変更されることがあります)

講演 「バリ島の稲作文化と水利システム」

早稲田大学教授 海老澤 衷

「骨寺遺跡保存と基盤整備との調整」

岩手大学教授 広田 純一

「一の井堰の変遷と現況の維持管理」

(財)建設物価調査会部長 松本 精一

4. 参加料 無料

5. 参加申込および連絡先

〒305 8609

茨城県つくば市観音台2 1 6

(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所

農村総合研究部都市農村交流研究チーム(担当 山下祐作)

☎029 838 7559 FAX 029 838 7609

E-mail: yamash@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上、2月20日(水)までに以下の要領にてお申し込み下さい。

氏名 \_\_\_\_\_ (CPD番号 \_\_\_\_\_)

所属機関 \_\_\_\_\_

所在地 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

FAX番号 \_\_\_\_\_

\* 部会員以外の方も参加できます。

\* (社)土地改良建設協会研修会との連携行事となっています。

## 第54回風に関するシンポジウム開催について

幹事学会 日本沙漠学会・日本農業気象学会

共催学会 農業農村工学会他14学会

1. 日時 2008年2月23日(土) 10:00~17:00

2. 場所 山口大学・大会会場

〒753 8511 山口市吉田1677 1 ☎083 933 5861

[http://www.yamaguchi-u.ac.jp/annai/campusmap/campusmap\\_yoshida.html](http://www.yamaguchi-u.ac.jp/annai/campusmap/campusmap_yoshida.html)

3. 参加費 無料

4. プログラム

10:30~10:40: 開会の挨拶

真木 太一(琉球大学農学部,九州大学名誉教授)

一般研究発表

10:40~12:00

1. 風の移動観測による局地風「まつぼり風」の観測

2. 宮崎県高千穂町の祖母山風穴の特徴について

3. 自然風の速さを測定するための無指向性ピトー管

4. 最近の九州・沖縄地方の台風の特性について

13:00~14:20

5. 台風域内における上空風の非対称性分布 ウィンドプロファイラ観測風と傾度風の比較

6. 台風災害の報道分析と過疎・高齢化地域における防災対策 2005年台風14号を事例として

7. 水稻における潮風害の特徴と人工衛星データを用いた被害評価

8. 街路樹に及ぼす飛来塩分の影響と風の関係

14:40~15:40

9. わが国で近年に発生した竜巻災害の特徴

10. 建築物は竜巻にどのように対処するか 竜巻シェルターの海外事例

11. 接地層と混合層における大気乱流の同時観測と卓越渦の解析

15:40~16:50

特別講演: 気象環境に関する研究40年

早川 誠而(山口大学農学部教授,農場長,農学博士)

16:50~17:00 閉会の挨拶

17:30~19:00 交流会(会費4,000円程度,同会場)